小学校体育学習を支援するシステム開発研究

－発達障害を持つ児童が楽しめる教材開発を視点として－

◎鈴木　　聡　（東京学芸大学健康・スポーツ科学講座・体育科教育分野）
〇松井 直樹　（東京学芸大学附属大泉小学校主幹教諭）
佐藤 洋平　（東京学芸大学附属竹早小学校主幹教諭）
今井 茂樹　（東京学芸大学附属小金井小学校教諭）
久保賢太郎（東京学芸大学附属世田谷小学校教諭・東京学芸大学大学院）
小島 大樹　（調布市立調布第三小学校指導教諭・東京学芸大学大学院）
代表者連絡先：satoshi@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】　発達障害、ゆるスポーツ開発、教育支援

１　はじめに

小学校においては、発達障害を有する児童に対して様々な支援が行われている。その多くが、学習支援や、立ち歩き等への対応というものである。本学の学生も学習ボランティア等でそうした支援活動を行っている者が多い。体育学習の授業場面に目を向けると、発達障害を有する児童の特徴として、ルールに対して必然性を感じないことや、チームで協力をする事への苦手意識が上げられる。仲間と協力したり、規則やルールを守ると言うことは、体育学習においては大きなウエイトを占めるものであるが、このような教科の特性から、体育学習やスポーツに苦手意識を感じたり、嫌いになってしまう児童がいる実態もある。

体育は技能教科である。器械運動などでは、仲間と協力して技能を伸ばしたり、ゲーム領域であれば、ともに勝利を目指したりすることが目指される。一方で現代的な生涯スポーツの在り方を考えると、技能向上を突き詰めるだけでなく、楽しんだり広めたり経験したりすること自体の価値も存在する。インクルーシブの概念も体育学習には入ってきているが、できないことや苦手なレベルに目線を合わせるという視点が先行している面が大きく、「ともに楽しむ」という視点をもう少し強調すべだという見方もある。例えば、メディア等でも取り上げられている「世界ゆるスポーツ協会」(代表 澤田智洋氏 https://yurusports.com/)では、「得意な人が上手くいかない」「勝手も楽しい、負けても面白い」という発想から、様々な新スポーツ「ゆるスポーツ」を開発している。それらには、技能的、競技力的なスポーツ優位者が決して「手を抜く」のではなく、本気で頑張っても逆転現象が起きるところにその面白さとコンセプトがある。この考え方は、体育学習のカリキュラムを開発していくときに援用できる部分があるだろう。また、そのような視点でカリキュラムや教材を開発していくこと自体が、外部者が学校現場を支援し、教師以外の者たちが教師と協働して教育をするという「教育支援」にもつながるのではないだろうか。

２　本プロジェクトの目的

そこで、本研究では、発達障害の有無に関わらずに多くの児童が楽しむことができ、児童や教師にとって発達障害の疾患理解が得らるスポーツの開発を行い、附属小学校及び公立小学校、都立公園等で開催されるスポーツイベント等における実践を通して、体育学習を支援するシステムを開発することを目的とした。具体的には、研究代表者のゼミ所属学生が発達障害について学び、特徴を捉えた上で、世界ゆるスポーツ協会の傘下にある「ゆるスポ YOUTH」所属の他大学学生からスーパーバイズを受けながらスポーツを開発し、

実践と評価を繰り返すことを通して支援システムの開発を目指すこととした。なお、本研究に参画したゼミ生は、保健体育専攻・選修の学部学生、生涯スポーツ専攻学生、大学院教育学研究科保健体育専攻院生及び教職大学院保健体育サブプログラム所属院生で構成されている。効果測定の場として、都立公園が開催するスポーツイベント、都立特別支援学校における体験教室、公立小学校の授業を設定して研究を進めた。

3　本プロジェクトの実施

本プロジェクトでは、「得意な人が上手くいかない」「勝っても楽しい、負けても面白い」という発想から様々な新スポーツを開発し、実践と評価を通して小学校体育学習を支援するシステム開発研究を行った。ここでは活動内容に焦点化して報告する。開発は、研究代表者である鈴木と共同研究者、先述のゼミ学生であった。学生の内訳は以下の通りである。

表 1　プロジェクト参画学生の構成

所属	大学院生		学部生			合計
	2年生	1年生	4年生	3年生	2年生	計
平成31年度	5	5	8	9	3	30
令和元年度	4	4	9	8	0	25

＜1 年次の活動内容＞

研究スタート時（6 月）に、まずは発達障害についての勉強会を数回行った。初回は、一般社団法人日本発達障害ネットワーク事務局の橋口亜希子氏のレクチャーを受け、発達障害を持つ児童の特徴や傾向について学んだ。その後、4 チームに分かれてスポーツ開発を行った。また、開発作業と並行して開発するスポーツの総称として「ゆるスポーツ DeCö」（以下「ゆるスポ DeCö」と表記）と名付けた。これは、Developmental disability 及び Cooperation を合わせた造語である。また、ゼミ生のアイデアをベースにロゴを作成し、ゆるスポーツ YOUTH メンバーの古立守氏（東京芸術大学 3 年生：当時）の協力を得てデザイン化した（図 1）。ゆるスポ DeCö 開発期間は、7 月～9 月であった。途中、ゼミにおいて中間報告と検討会を行った。また、9 月 26 日には、ミズノフットサルプラザ千住において、ゆるスポーツ YOUTH と共同で開発したゆるスポ DeCö4 種目を紹介した。その際に、世界ゆるスポ―ツ協会代表の澤田智洋氏、株式会社電通吉田将英氏、MBS 吉廣貫一氏、ゆるスポ YOUTH メンバーの大学生から講評を受けた。その後もブラッシュアップを繰り返し、11 月上旬に 4 つのスポーツを完成させた。開発されたゆるスポ DeCö を実践した場は表 2 に示す通りである。また、開発したスポーツの名称は、「カオーリング」「ぷぺぴぽぱーてぃ王国」「サバいばる」「清掃寺」の 4 種目であった（表 3）。12 月 1 日実施の株式会社リタリコ主催運動会では、発達障害をもつ児童 60 名が参加し、内容に関する調査を教室の指導者及び参加した児童（一部回答者は保護者）を対象に実施した。

図 1　ゆるスポ DeCö ロゴマ

＜2 年次の活動＞

継続研究 2 年目に当たる令和元年度は、新たに 3 種目のスポーツ開発及び検証を行った（表 2 及び表 3）。小学校でのトライアル実施については、プロジェクトメンバーの勤務校である調布市立調布第三小学校放課後児童クラブの協力を得て行った。また、国分寺市立第八小学校（1，2 年生の体育の授業）、北区立王子第一小学校（土曜日開催の親子スポーツ教室）から実施の依頼を受け実践した。開発したスポーツの効果検証の柱となったのは、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団より依頼を受けた都立学校活用促進事業への参画である。「ゆるスポ DeCö 体験教室」と称し、年間 3 回実施した。会場はいずれも都立小金井特別支

援学校体育館であった。また、富山県高岡市において実施された社会福祉法人くるみ主催の「やってみよう！ゆるスポーツ！」にも招聘された。その他、東京都公園協会主催のスポーツイベントとして、豊洲公園にて企画運営を行った。

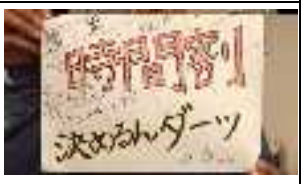
また、10 月 12,13 日には都立駒沢公園におけるスポーツ博覧会に出展予定であったが、台風により中止となり、都立代々木公園におけるスポーツフェスティバルへの出展も大雨で中止となった。2 月下旬～3 月中旬には、横浜ノースポートモールにおけるイベント等は、新型コロナウィルスによる活動自粛のため実現できなかった。2 月後半から 3 月にかけては、多くのイベントからの出展、実施の依頼が来ていたが、やむを得ず中止となったものの、東京学芸大学からの呼びかけである「「勉強」して遊ぼう！」のコンテンツ募集に応え、大学院生を中心に、いわゆる 3 密を避け家でできる「6 畳ゆるスポ DeCö」を作成し、動画をアップした（https://www.u-gakugei.ac.jp/pickup-news/2020/03/post-617.html）。現時点で、「6 畳カオーリング」「あしあしレース」「時間割を決めるんダーツ」の 3 種目を紹介、掲載した。

2 年間の活動の詳細、開発したスポーツの内容及びコンセプト、実施した児童、保護者、指導者、教師からの評価等については、別途報告することとする。

表 2　2 年間の主な実践活動

活動年度	日時	活動名	会場
平成31年度	6月22日（金）	発達障害に関する勉強会　講師一般社団法人日本発達障害ネットワーク事務局　橋口亜希子氏	大学飯島会館
	9月22日（土）	都立秋留台公園スポーツイベント	都立秋留台公園
	9月26日（水）	ゆるスポYOUTHジョイント企画	ミズノフットサルプラザ千住
	10月21日（日）	全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会参加　イベント実施	東京学芸大学
	11月11日（日）	都立武蔵野中央公園 スポーツイベント	都立武蔵野中央公園
	11月24日（土）	都立代々木公園 スポーツイベント	都立代々木公園
	12月1日（土）	LITALICOジュニア関西エリア特別プロ「ゆるスポフェスタ」	FUT MESSE天下茶屋
	2月21日（木）	プロジェクト開発研究報告会	東京学芸大学
	3月3日（日）	2018年度教育支援協働学会ラウンドテーブルにて報告	東京学芸大学
	3月13日（水）	2018年度活動報告	MBS東京本社
令和元年度	5月18日（土）	豊洲公園レクリエーションスポーツフェスタ	都立豊洲公園
	7月5日（金）	発達障害に関する勉強会　講師筑波科学技術大学大鹿綾先生	研究棟8号館
	7月6日（土）	やってみよう！ゆるスポーツ	高岡市立南条小学校
	9月15日（日）	豊洲公園レクリエーションスポーツフェスタ	都立豊洲公園
	9月16日（月）	TBSテレビ 週刊アサ秘ジャーナルにて活動紹介放映	TBSテレビ
	10月5日（土）	平成31年度都立学校活用促進モデル事業 スポーツ体験教室 ゆるスポ DeCö体験教室	都立小金井特別支援学校
	10月12日（土）～13日（日）	スポーツ博覧会	都立駒沢公園（雨天中止）
	11月7日（木）	新作 DeCöトライアル	大学フットサルコート
	11月12日（火）	新作 DeCöトライアル	調布市立調布第三小学校
	11月24日（日）	代々木公園スポーツフェスティバル	都立代々木公園（雨天中止）
	1月11日（土）	平成31年度都立学校活用促進モデル事業 スポーツ体験教室 ゆるスポ DeCö体験教室	都立小金井特別支援学校
	1月25日（日）	北区立王子第一小学校土曜教室 ゆるスポ DeCö体験	北区立王子第一小学校
	2月4日（火）	国分寺第九小学校ゆるスポDeCö教室	国分寺第九小学校
	2月8日（火）	平成31年度都立学校活用促進モデル事業 スポーツ体験教室 ゆるスポ DeCö体験教室	都立小金井特別支援学校
	2月22日（土）～24日（月）	northport のすぽキッズ未来計画 ゆるスポ DeCö体験教室	northport MALL（covit-19自粛）
	2月29日（土）	代々木公園スポーツフェスティバル	都立代々木公園（covit-19自粛）
	3月1日（日）	2019年度教育支援協働学会一般発表にて報告	愛知教育大学（covit-19自粛）
	3月20日（金）	小金井公園スポーツイベント	都立小金井公園（covit-19自粛）

表 3　開発されたゆるスポーツ DeCö

平成 31 年度開発スポーツ　全 4 種目			
カオーリング	ぷぺぴぽぱーてぃ王国	サバいばる	清掃寺
令和元年度開発スポーツ　全 6 種目			
リンリンケロリン	ばい菌グー！	貝 cölor	
6 畳 DeCö 説明	6 畳カオーリング	あしあしレース	時間割を決めるんダーツ
			

4　成果と課題

2 年間の研究活動を通し、発達障害への理解を広めるとともに、体育科教育の在り方や教科内容についても提言し得る成果が得られた。特に、ゆるスポ DeCö 開発に向けた概念整理や、スポーツを創るマニュアル化への試みが進み、ワークショップ等実施の可能性を加味したパッケージ化のシステム構築についても整理することができた。調査としては、参加者及びイベント運営者、教師へのアンケートを実施することができ、成果の一部は、日本教育支援協働学会 2018 年度大会ラウンドテーブルにおいて報告した。また、同学会 2019 年度大会（2020 年 3 月 1 日実施予定であったが延期中）において、一般研究発表を行う予定である。特に 2 年次は、開発した各種目のパッケージ化を進めることに成功し、様々なイベント（東京都公園協会の協力や、世界ゆるスポーツ協会主催のイベントなど）から参加依頼を受けたことは大きな成果であろう。また、東京都スポーツ文化事業団からの依頼によって実現したイベントでは、障害を持つ児童の参加も多く、保護者からも「子どもたちが夢中になって遊んでいた」と好評を得られた。本研究を通して、参画した学生は「スポーツ」をより広い視点で捉えられるようになったと自己評価している。開発したスポーツをイベントごとに改善を重ね、どのように世の中に浸透していくのかを見ながらスポーツの新たな可能性を追究することができたことも学びとして捉えているようである。

課題としては、まずは、開発した「ゆるスポ DeCö」のより広い実践である。現時点では、東京、大阪、富山においての実践のみであるが、様々な地域で実践し評価活動を繰り返してオーソライズすることが求められる。また、教師に向けた「ゆるスポ DeCö」実技研修会及び開発方法の研修会の実施である。実際に求める声がありぜひ実現していきたい。教育現場への一層の波及を目指すことができるだろう。その上で、学校現場での利活用に関する教師への意識調査を実施していく。以上を今後の課題としたい。